

『われわれは遠くから来た、そしてまた遠くへ行くのだ』

キタモトマサヤ

この台本は、ウイングフィールドで上演されるために書かれた。上演にあたっては、新型コロナウイルス感染症防止対策のための特殊な演出をほどこす。それについては最終ページまで明らかにしない。

俳優の、基本アクティング・エリアは、高さ2尺、間口奥行きともに9尺の二重舞台である（2尺高に設定すると、俳優の身長がバトンに吊られた照明機材とギリギリの高さになる）。

その周囲に4人分の椅子がある。椅子の頭上から本作の台本がゴム紐でぶら下がっている。

換気のため、ドアや窓が開放されている。外光が侵入しても厭わない（しかたがない）。

女たち4人、登場。
椅子に腰かける。

女1は、八十歳ぐらいに見える。

女2は、五十歳ぐらい。

女3は、四十歳ぐらい。

女1の衣裳は、白い割烹着のよう。

女2、女3の衣裳は、農作業に従事しているような、いわゆる野良着という態である。

女4は、四十年代後半ぐらいに見える。

女4の衣裳はあえていえば現代風。生成りのワンピースが望ましい。

男たち4人、登場。

二重舞台の周囲に控える。

女たち、ぶら下がっている台本を手にした。

このことにより、この芝居は女たちが支配しているように見えればありがたい。

この台本の赤色で印字された文字は、舞台では台詞として発しない。

黒色で印字された台詞やト書きはすべて、俳優の声により、観客席に届けられる。

さあ、客席の明かりは消えた。

女たち、台本のページをめくる。

(タイトル)

女1・2・3・4 われわれは遠くから来た、そしてまた遠くへ行くのだ。

女1 登場人物。

キタガワヨシキ、六十五歳。元ツダ町役場の職員で、昨年までコミヤ地区の町内会長を務めていた。ふた昔も前のこと、下校途中の娘が神隠しにあった。さらに、初めてだんじり曳行が中止になった年の夏には、心を病んでしまった妻も消息を絶った。

名を呼ばれるとキタガワヨシキ、ゆっくりとした動作で動きだし、二重舞台へと這い上がり、寝転んで、動かなくなった。

女1

ヤマダシンジ、六十八歳、元土木建築会社役員。地元で名を馳せた工務店だったが、すでに四半世紀も前に倒産している。彼は、酒浸りでぼんやりと一日を過ごす、孤独なやもめ暮らしである。

ヤマダシンジ、同じく二重舞台へ這いあがり、動かなくなった。

女1

タナカイチロウ、五十五歳、造園業。未婚のまま、年老いた母とふたり、古い田舎家に暮らしている。

先のふたりと同じく、二重舞台へ這いあがり、動かなくなった。

女1

サカウエヒロシ、四十二歳、農協職員、現在、コミヤ地区消防団分団長、妻とは離婚、別居している、ということになっている。娘がふたりいる。

サカウエヒロシは、歩き出し、二重舞台からやけに離れた位置で、三角座りをして、そしてまた、じっと動かなくなった。

(イントロダクション)

女2

飛ばされる、ぶつかる、倒される。唸りを上げる風、叩きつける雨。

電線が引きちぎられ、スパークする。閃光。

命あるものもないものも、ひたすら怯えて大地にしがみつき、震えながら息を凝らし、あるいは悲鳴をあげながら、一心に耐えている。

超大型で最大級の猛烈な台風。

そのさなかである。

マグニチュード9・0、南海トラフを震源とした直下型地震が大地をふるいにかける。

落ちる、割れる、崩れる。
揺さぶられ、山は濁流となって麓の集落を覆いつくす。
この世界の、あらゆるものの恐怖の声。
すさまじい。

暴風雨と地震による破壊の音響で構成されたSEが、最高潮で寸断された。
一瞬の静寂と暗黒（すべての照明のカット・アウト）。

（パート1）

激しい雨風の音がゆっくりと立ち上がってくる。

女2

微光をまとった大気が幾筋か、そこここに流れ込んできて、這いつくばったり、寝転がったりしている男たち3人を弱く照らし出した。
夜である。

空間は煙っている。

ここはどこだろうか。

かろうじて崩壊を免れたた建物の中のようにもある。

単調で電氣的なサイン波の音響。

女2

キタガワ、眠りから覚めるように、緩やかに動き出した。
ぼんやりしていたが、他のふたりに気づいて、

キタガワ

おいっ、・・・おいっ、しっかりせえ、大丈夫かっ？

サイン波は消えた。

女2

ヤマダとタナカも、眠りから覚めるように、動き始めた。

明かりは、男たちに向けられたものだけを残し、消え去ってゆく。

キタガワ

おいっ、

ヤマダ

い、いたたたた、

キタガワ

気イついたか、

ヤマダ

うっ・・・、右足や、いたっ、やっでもうた。

キタガワ

シンジさん、

ヤマダ

折れたかもしれない、あいた、いた、ん・・・あれっ、・・・いや、たいしたことないか、

あれっ、あっ、いたないわ。

キタガワ

は、はあ？

ヤマダ

いたない、いたない。

キタガワ

どっちですねん。

ヤマダ あー、なんやったんやろ、いたないわ。

キタガワ はあ、

ヤマダ おう、ヨシキか、どこやここは？

キタガワ 消防の屯所やと思うんです。

ヤマダ 思う？

キタガワ わやなことになってますけど、

ヤマダ 屯所か。そうか、ワシ、屯所に逃げ込んだか。

キタガワ ワタシもさっきまで氣イ失うとったですわ。

ヤマダ なんてこんなとききたんか。

キタガワ ワタシ、地震やあ思たら、屯所に向こうて走っとったんですわ。

ヤマダ さすがやのう。

キタガワ 消防のころのあの感覚つちゅうのんは、身体に染みついて抜けへんもんなやなあと思いません。

ヤマダ 法被つかんでのう。

キタガワ ワタシらの頃はやたらと火事が多かったし、

ヤマダ ワシ、外に出てなにをしよう思ってたんやろ。

キタガワ それにワタシ、娘と・・・それと家内のことで、ムラのみなさんにはえろうお世話になつてるし、いざというときは懸命にはたらいて、恩返しせなあかん立場であるのやし、

ヤマダ ああ、

キタガワ その節はいろいろとすんません。

ヤマダ なに謝ることないやろ。それを苦に思てやで、ムラの役に立とうとして一生懸命やつてるんやったら、それはもうええんちゃうか。おたがいさまやぞ。

キタガワ はい。

ヤマダ もう氣にすんなよ。

キタガワ ありがとうございます。

ヤマダ ところで消防車あらへんがな。

キタガワ 災害救助で出勤してるんやないかと思うんですが、

ヤマダ ポンプで水を吸い出すてかい。こうなったらもう無理やろ。

キタガワ まあ、いったん出してしまたらしゃあないですわ。どっかで消防車も避難してると思います。

女3 ヤマダ、もうひとり、側にいることに気づき、

ヤマダ だれや？

タナカ あ、はい、

キタガワ イッチちゃんやな、

タナカ あのう、

キタガワ イッチちゃんです。

ヤマダ (キタガワに) イッチちゃん？

キタガワ 植木屋の、ゼンベエさんとこの、

タナカ タナカイチロウです。

ヤマダ ああ、オマエな。オマエがタナカイチロウやったな。おう、知ってる知ってる、タナカイチロウ。しっかしオマエ、なんちゅういさぎよい名前してるねん。

タナカ はあ、

ヤマダ まあ、親がつけてくれた名前やしな、ええ名前や、覚えやすい。

タナカ はい。

ヤマダ 大事にせなあかんぞ。

タナカ はあ、

ヤマダ それにつけてもタナカイチロウ、オマエ、仕事出る前にもう呑んでるんやそうやないか。

タナカ あー、それは、

ヤマダ 酒呑まな高いとこ登られへん植木屋て、それオマエのことやんな。

タナカ うーんと、まあ、

ヤマダ ほんで時どき酔っぱろうて落ちるんやて。

タナカ 落ちませんよ。

ヤマダ 落ちへんのかい。おもしろいのう。ほんで、なんで呑むねん。

タナカ ……怖いんでしょね。

ヤマダ 怖い？ 高いとこ怖て、なんで植木屋やとんねん。

タナカ うーん、それは、

キタガワ イツちゃんは、アレやな、対人恐怖症とか、そんなんちゃあうんか。

タナカ うーん、

ヤマダ なにうなつとんねん。ほんでオマエ今日はもう呑んだんか。

タナカ 晩酌まではガマンしとつたんやけど、へへ…

ヤマダ そら呑むわな。

キタガワ まだやめられへんのかい。

ヤマダ ああ、やめられへんやめられへん。

キタガワ ……

タナカ おかあちゃん、ほってきてしもうた。心配で。

ヤマダ この台風と地震や。

キタガワ おかあちゃんほってきたて、どこに？

タナカ ウチにいるはずやねん。

ヤマダ ウチかよ。

キタガワ 家さえつぶれてへんかったら大丈夫やる。この屯所かてなんとかもってるんやさかい。

ヤマダ オマエはおかあちゃんほってなんでここにおるねん。

タナカ 痛風の発作がでて、

キタガワ おかあちゃんが、

タナカ いや、ワイが。

キタガワ ……

ヤマダ ヨシキい。

キタガワ すいません、つい、

ヤマダ なんでおかあちゃんが痛風やねん。あれはオトコの病気じゃ。ヨシキさんはおもろいこ

とゆわんでもええの。ほんでタナカイチロウ、オマエも痛風かい。
タナカ はい。

ヤマダ ワイもや。

キタガワ そやからイツちゃん、酒やめな、

タナカ うーん、

キタガワ シンジさんも。

ヤマダ ほっといて。

キタガワ ほんで、イツちゃんはなんでここに、

タナカ 植林場がどうなってるんか気になって、いてもたってもいられへんようになって、それでウチを出ましたんや。

ヤマダ 痛風はどうなった。

タナカ 自転車に乗ってようすを見に行っちゃる思て、

キタガワ 自転車・・・なんで軽トラで行けへんかってん？

ヤマダ せめて軽トラで行けよ。

タナカ いやあ呑んだし。

ヤマダ 軽トラでもチャリでも飲酒運転はおんなじことじゃ。

タナカ えっ、おんなじ？ ホンマに。

キタガワ イツちゃんいっつも酒呑んで運転してるやないか。

タナカ 今度つかまってしたらワイ、エライことになるんやわ。

キタガワ 免停か、

ヤマダ 取り消しですなあ。おいタナカイチロウ、痛風はどないなっとるんじやい。

タナカ そやからワイ、自転車こぐのん、足、いとうてな、やっこさっこ、オイケの下あたりまできたら、アレや、ドドーンて落ちて、

ヤマダ オイケの下でなにが落ちたんや。

タナカ その、周りよ、ワイの、周りの景色がドドーンて、落ちて、なんか全部、落ちたみたいに見えたんですわ。

ヤマダ わががチャリから落ちたんちゃあうんかい。

タナカ いやいや、落ちたよ。

ヤマダ わががやろ、

タナカ いや、ワイの周りが。びっくりたまげてな、揺れるんとはまたちやあうんや、落ちるんやで。自転車こがれへん、風に飛ばされるし、雨、土砂降りやし、足いたいし、地面に這いつくばって、ひいひい転げまくりながら氣イついたら、ここ、ここにいたんですわ。背中で音、ごっつい音、今までに聞いたことない音、聞いた。

ヤマダ ……ああ、……聞いた。

タナカ、ふと気が付いて、痛風の痛みの箇所（右足親指の付け根）をさわり、

タナカ あっ、あれっ、足、治っとるわ。

ヤマダ 痛風がかい、

ヤマダ、タナカの気にしている痛みの箇所をギュツとつかんだ。

タナタ ギヤッ！・・・いたないわ。

女3 吹きすさぶ風、不気味な雨音。

タナカ おかあちゃん大丈夫やるか。なあムラはどないなってるやろかなあ。

ヤマダ 外に出て見てこいや。

タナカ そんなこと、

キタガワ まだ怖いわ、危険やわ。

ヤマダ ほなここでじっと耐えろや。

女3 どうしようもない、致し方のない沈黙。

キタガワ、胸、腰のポケットを探りはじめたが、

キタガワ しまったあ、

ヤマダ どないした、なにがあった、

キタガワ ケイタイ、

ヤマダ そや、ちよつとだれかに電話してみい。

キタガワ ないっ、どつか落とすとする。

ヤマダ どアホっ、もう、ヨシキい、ヨシキさんてば、

女3 ヤマダ、タナカの方を見た。

タナカ、申し訳なさそうにうつむいた。

ヤマダ オマエも持っていないかいっ。ほんまどうしようもないやつらばかりやのう。ワイも持っていないやけどな。

女3 暴風雨がそんな彼らをあざ笑うように激しい。

ヤマダ イチロウ、今度一緒に呑もうや。

タナカ はい。

キタガワ イッちゃんに呑ましたらあきませんよ。

ヤマダ 晩酌でいどや。

キタガワ ムラいちばんのアル中同士がつるんだらえらいことなるなあ。

タナカ おかあちゃん・・・、

ヤマダ 心配やのう。台風と地震の連合軍に攻め込まれてもうた。

キタガワ 確率としてはあり得ることでしたけれども、ホンマにこんなことになってしまいうやなんて、

ヤマダ 崇られてんのとちやうか。

キタガワ 崇られてる？

ヤマダ だれかによろ。たとえばイノシシとかによろ。

キタガワ なんでイノシシ、

ヤマダ 殺してるよろ、みな。

キタガワ みななわけないでよろ。

ヤマダ 害獣やゆうて畏かけて捕まえて、ほんで食うてるやんけ、バーベキューにしてうまいらまいて。山でバーベキューしとんの、みなそうや。あれはみなイノシシ食うとるんじや。うり坊とかよろ、可愛らしいのによろ。

キタガワ 牛（ぎゆう）や豚を食うてるひとがほとんどでよろ。

ヤマダ 牛や豚でもや。それもあつてや、崇られるんは。

キタガワ 家畜ですよ。

ヤマダ そやからこの、大自然に崇られてるんや。牛かて豚かてニワトリかて、もともとは自然界にいたもんちやあうんかい。大自然で楽しゆうくらしていたもんちやあうんかい。それをニンゲンさまがよろ、勝手に家畜にしたんよろが。

キタガワ はあ。

タナカ 命をいただいてますね。

ヤマダ そよろが。そやから、神さまや、神さまに崇られてるんや。

タナカ 神さんは崇らんでよろ。

ヤマダ オマエ知らんのか。丑三つ時に藁人形に五寸釘打つちゆうのんはあれは、神さまに願うとるんちやあうんけ。神さまや、崇るんは神さまなんじや。

女3 彼らの頭上に、風に飛ばされたなにかがぶつかつて凶悪な音をたてた。

音響。

女3 3人、身をすくめた。

と同時に、男（サカウエ）の悲鳴じみた声。

サカウエ、声をあげた後、ゆっくりと二重舞台上に上がり、そうして横になる。

ヤマダ 崇りじゃあー、

タナカ なにぶざけてますん。

ヤマダ 神に誓っていいますがぶざけてるつもりはありませんよボク。

キタガワ 今、声がした。

ヤマダ ワシや。

キタガワ シンジさんアンタ最近イノシシ食うたな。

と、キタガワ、手探りで声のした方へ這ってゆく。

サカウエはここまでの間に、板付きを済ませればよい。

キタガワ　なんかこの辺りで、・・・、・・・ひとやつ！
ヤマダ　ええっ、もひとりいたんかいっ、
キタガワ　おいっ、おいっ、大丈夫かつ、ケガしてないか。

反応がない。

キタガワ　・・・あかん。

ヤマダ　死んでんのか。

タナカ　声したんやろ。

キタガワ　意識がないみたいや。

タナカ　なんまんだぶなんまんだぶ、なんまんだぶなんまんだぶ、

ヤマダ　(タナカに被せて)　なんまんだぶなんまんだぶ、なんでやねん、まだ死んでるかどうか

わからんのやろ。

タナカ　神さんに頼んでるんです。

ヤマダ　なんまんだぶは仏さんじゃ。

サカウエの小さな唸り声。

キタガワ　・・・あ、ちよっと待って、

サイン波の音響が再び。

女1　サカウエ、目を開いた。

キタガワ　おいっ、氣いついたか、しっかりせえ、

女1　ポカンとした表情のサカウエ。

と突然、頭を押さえ、大きくゆがんだ表情で呻きだした。

サイン波の音響消え、

サカウエ　いたいたいいたいたい、いたいよおっ、

まるで号泣しているようだ。

キタガワ　おいっ、どこがいたいんや。

サカウエ　頭あたま、頭が、ごっつういたいっ、

キタガワ　頭かつ、

ヤマダ　救急車や救急車、・・・救急車はどうやって呼んだらええねん。

女1 身をよじって呻くサカウエを前に、3人はどうすることもできず、手もだせない。

サカウエ ひいつ、ひいつ、ひいつ、

3人 ……、……？

キタガワ 過呼吸や、過呼吸、おいつ、サカウエさんやなつ、息を止めて息を止めて、

サカウエ (息を止めた)

キタガワ ゆっくりと、…今度はずっくりと吐いて、さあ、ゆうっくり、

サカウエ (息を吐き始めた)

キタガワ よっしゃ、吐いて、吐いてえ、…よしそれでええそれでええ。

サカウエ (息を吐き切った)

キタガワ ほたらまた息を吸うてえ、

サカウエ (息をゆっくりと吸った)

キタガワ 止めて、止めて止めて、…ほんでまた吐いて、吐いて、そう、

サカウエ (吐く)

キタガワ 吐いて、吐いてえ、

サカウエ (吐き切った)

キタガワ よっしゃ大丈夫や。サカウエさん、しばらくそれを続けるんや。

サカウエ、息を吸って、止めて、ゆっくり吐き切る、を繰り返す。
呼吸音がしばらく。

ヤマダ 赤ちゃんみたいなもんやのう。オギャーで産まれたときの、産声みたいなもんかのう。

タナカ なにがですか。

ヤマダ いや、その、コイツの、さっきの、悲鳴がよ。

タナカ なるほど。

サカウエ、落ち着いてきた。

キタガワ どや、大丈夫か。いたいところは、

サカウエ ……いや、いたいところは、……ないです。

女1 不思議なことに痛みは消え去っていたのだ。

キタガワ 頭は？ 頭はいたないんか。

ヤマダ いたいいたいゆうて泣いてたやないか。

サカウエ いや、もう今は…、ボク、助かったんですね。

キタガワ そやでサカウエさん。

サカウエ 怖かった、ボクは、なんか、ボクは、…ボク、泣いてましたか？

タナカ おぎゃあ、おぎゃあ、ゆうとったわ。

ヤマダ オマエ死んでる思てコイツ(タナカ)、なんまんだぶゆうてたぞ。

タナカ ちやいますよ。

サカウエ ああ、イチロウさんやないですか、
タナカ おう。

サカウエ みなさんが助けてくれたんですか。

キタガワ いや、

ヤマダ そうや、ゆうたらええやないか。

サカウエ ヨシキさん、イチロウさん、それから、

ヤマダ ワシらが助けたったんや。

サカウエ ありがとうございます。もう大丈夫です。ボク、サカウエです。

ヤマダ わかってるで、さっきからヨシキがそう呼んでるやんけ、で、どこの？

タナカ コバヤシ神社の裏手に、

ヤマダ オマエに訊いてないわ。

サカウエ コバヤシ神社の裏手に下っていく道あるでしょ。坂道に入って右側の白い家。

ヤマダ ああ、あのあたりな。

キタガワ サカウエさん、ホンマに大丈夫なんやな。

サカウエ はい。

ヤマダ ワシはヤマダや。

サカウエ ……もしかしてヤマダ建設の？

ヤマダ もしかしててなんや、コイツ、まあ、そうや。いやなことゆいよるで。

サカウエ 気に障ったんやったらすいません。

ヤマダ ほんで仕事はなにしてんのん。

サカウエ ボク、JAに勤めてます。

ヤマダ ガソリン・スタンドの前のか。

サカウエ はい。

キタガワ そこにしかないです。

ヤマダ ガソリン・スタンドはGSや。グループ・サウンドの略な。

キタガワ いやガソリン・スタンドはサービス・ステーションでSSです。

ヤマダ ヨシキさん、ちよっとだまつといて。ほんでオマエここはなんでJAちゅうねん。

サカウエ え？

ヤマダ 農協ちゅうたらいかんのかい。

サカウエ いや、

ヤマダ ほんで、なんでスチュワードスがCAやねん。

サカウエ さあ、それは、

ヤマダ キヤビン・アテンダントやないけ。

キタガワ 知ってるんや。

ヤマダ 知らないでか。ほんで農協はなんでJAやて訊いてんねん。

サカウエ 農業協同組合の略なんですよ。

ヤマダ アホ、農業協同組合の略やったら農協やないか。

サカウエ 英語で、ジャパン、アグリ、ええっと、アグリカルチュラル、コーポラティヴズ、ですよ。

ヤマダ うわ、そんなムツカシイこと、オマエ、よおゆえたなあ。びっくりびっくり、偉いのう、ほめてつかわす。そやけどオマエ、ケンカ腰はあかんぞ。

サカウエ ケンカ腰になったりしてませんよ。

キタガワ まあまあ、分団長さん、

ヤマダ 分団長、

キタガワ ほんで屯所にきてくれたんやろ。

サカウエ ……ええ、まあ、

タナカ 消防車もどつてけえへん。

キタガワ

救護活動もなんもでけへん状況やろ。パトカーも救急車も消防車も、走ってるようすはあらへん。両生類みたいにじいっと息をひそめてる。ひとの動いてる気配もない。この地球が誕生したばかりみたいな、雨と、風と、地鳴りと、雷と、

ヤマダ どないなつとるんじやいもう、なあ、気色悪い。ほんで分団長、その、アグリてなんやねん。

サカウエ ええつと、その、アグリカルチュラルてゆうのはですね、農業のこと、ですよ。

ヤマダ 農業。ほたらその農業のことを、なんでそんな難しいゆい方するねん。

サカウエ 英語でそうゆうんですよ。

ヤマダ ジャパン、アグリ、ほんでそのあとの、

サカウエ カルチュラル、

ヤマダ そのあとや。

サカウエ コーポラティヴズ、

ヤマダ それはなんやねん。

タナカ (思い出したように声を上げた) コーポ…

サカウエ 共同組合つちゆう意味ちやあうんかな。

ヤマダ 日本、農業、協同組合。そのまんまやないか。

サカウエ あたりまえですよ。JAはその愛称ですよ。

ヤマダ ジャ、やったらあかんのかい。

サカウエ ジャってなんですか。

ヤマダ JとAでジャやないか。

サカウエ ジャはおかしいでしょ。

ヤマダ コーポはどこいった。

タナカ コーポが消えた。

ヤマダ そうやコーポや。ジャパン・アグリでJAやろが、コーポがないやんけ。コーポは無視してもええちゆうんかい。

サカウエ どうでもええでしょ。

ヤマダ どうでもええことあるかいっ。コーポにあやまらんかい。

サカウエ どうゆうこと、

ヤマダ まあ、愛があるのはええことやけどな。

サカウエ 愛？

ヤマダ ボクしんちゃん。

サカウエ は？

ヤマダ 愛称やんけ。

サカウエ 知りませんよ。

ヤマダ コイツまたケンカ腰や。

サカウエ アンタとはもうしゃべりません。

キタガワ シンジさん、もうええかげんに許しちゃってください。ここは呑み屋とちやあうんやさかい。(サカウエに) このおっさんはな、呑んでくれて若いもんからむのんが趣味みたいなもんやねん。なあ、シンジさん。

ヤマダ (サカウエに) ミルクでも飲んどけちゅうねん。

サカウエ それどうゆう意味？

タナカ コーポマツムラや、

キタガワ え、どないしたんイツちゃん。

タナカ あれコーポマツムラや。砕け落ちたんや。映画みたいやった。

ヤマダ 黄色い5階建てがかい、

タナカ そう、映画みたいに。

サカウエ インディペンデンス・デイ、

ヤマダ 宇宙人が攻めてきた。宇宙人と戦争や、ちゅうやつ。

サカウエ オイケのところですよね。ボクはその手前の墓地が流れるのを見ました。

キタガワ 墓地が流れる？

サカウエ 斜面が、流れるように崩れたんです。

キタガワ コミヤの墓地が流れた・・・すぐそここのところやないか。

サカウエ 墓石(はかいし)が次々と土石流に呑み込まれて、泥の川になって、そこからニンゲンが、何人も立ち上がったように見えました。

キタガワ 墓の中から、

ヤマダ おっそろしいことゆうなあ。

タナカ ゾンビや。

サカウエ 原題ドーン・オブ・ザ・デッド、死人(しびと)の夜明けですわ。

ヤマダ 都合良う、よお知ってるもんやのう。

サカウエ はい。

ヤマダ ワシら映画同好会か。泥の河は小栗康平監督の出世作じゃい。サヨナラ、サヨナラ、サヨナラ、

キタガワ 土石流の勢いに押されて、倒された墓石がまた起き上がったたりしたんやろな。ほたら

サカウエさん、アンタそれどっから見たんや？

サカウエ あれっ・・・どこやったかな、おかしいな、タカダさんとことか、あこらへんの家がたぶん倒壊して、墓のある斜面まで見通せたんかなあ。

キタガワ 倒壊した、

サカウエ ほんで頭ガツンと打って、

女2 サカウエ、頭を手でさぐり、不思議そうな表情。

暴風と雨ははまだ静まる気配もない。

プロペラの音が近づいてきた。

音響。

キタガワ ヘリヤ。
ヤマダ ヘリコプターや、
キタガワ 救助しにきてくれたんかな。
サカウエ テレビちやいます？
キタガワ いや、待てよ、ホンマにヘリコプターやるか、
サカウエ え、
キタガワ この天候で、ヘリコプターが飛べるか、
ヤマダ アメリカさんが助けにきてくれたんちやあうんか。
キタガワ まさか、
サカウエ プロペラがふたつ付いてるアレちやあいます。
キタガワ オスプレイ、オスプレイがこんなとこにくるか？
ヤマダ そやつ、電話やつ、サカウエくんつ、電話もつてるやろ、なんたらちゅうもん、
キタガワ ケイタイ、
サカウエ 突然くんづけで呼ばないでください、スマホですよ。
ヤマダ どっかに電話や。
サカウエ どっかて、
ヤマダ どっかや。テレビ局や。新聞社や。役場や。どないなってるんか訊くんや。
サカウエ 無理です。つながりません。
キタガワ そんなことないやろが。
サカウエ つながれへん。

というなり、号泣。

キタガワ ・・・サカウエさん、
タナカ やっぱりたいんけ。
サカウエ (泣きながら) つながれへんのです。
ヤマダ ちよっと、持ってんやつたら(スマートフォンを)貸してみい。
サカウエ いややつ、
ヤマダ 駄々をこねんと、オマエ子どもか、さあ、
サカウエ 子どもと、
キタガワ うん、子どもさんと、
サカウエ ウチの奥さんがサノに住んでて、ミナトです、
キタガワ サノミナトな。ほんで、電話がつながれへんかったんやな。もいっぺんかけてみてくれへんか、もいっぺん、
サカウエ スマホもうないんです。
ヤマダ あー、
サカウエ ウチの奥さんと話しているときに、ボクの手からスマホが離れてゆきました。そやか

らもう、

ヤマダ 落としたんかい。どいつもこいつも、

女2 ヘリコプターかもしれないプロペラの音は4人の頭上を通過したのち、遠ざかっていった。

サカウエ どうしよう、逃げ遅れて津波の呑まれたら。

キタガワ 津波、

サカウエ そんなことをゆうたんです、電話の向こうでユキコが、ウチの奥さんが。サイレンがけたたましゅう鳴ってたんです。あれは津波警報や。もうきたんか、これからくるんか、わかりません。わかりませんが、きてるかもしれへんやないですか。海の近くなんですよ。

ヤマダ オマエ、サノにも家もってんのかい。

キタガワ いや、違うんです、シンジさん。

ヤマダ サノミナトやろ。

キタガワ 奥さんと子どもさんが、

ヤマダ ん、え、奥さんと子どもが、

キタガワ そういうことです。

ヤマダ サノにすんでんねやろ、え、どういうこと。

キタガワ 察したって。

サカウエ ヨシキさん、もうええです。しんちゃん、

ヤマダ はい、しんちゃんやで。

サカウエ 離婚したんです。別居してるんです。そういうことです。

ヤマダ ほなワシとおんなじやないかい。

サカウエ おんなじ、

ヤマダ そや、バツ2や。

サカウエ はあ、

キタガワ あれ、そやったですか？

ヤマダ そや、バツ2や。(サカウエに) 離婚したんやったら先にそれをゆわんかい。ウチの奥

さ んが、ウチの奥さんが、て、ややこしいゆい方して、

サカウエ はい、どうもすみませんでしたっ。

ヤマダ ケンカ腰やな。

サカウエ そんなことないです。ケンカ腰とちやいます。もう別れてんにウチの奥さんが、て、未練がましいことゆうてすみませんでした。勘違いさせて、どうもすみませんでした。

ヤマダ おう、わかつたらええんや。まあ、大丈夫やて。

サカウエ ああー、なんでそんなカンタンにゆうかなあ、大丈夫で。そんなんわかりませんよ。

大阪湾岸はねえ、全部埋め立て地なんです。海拔何メートルやと思ってるんですか。0(ゼロ)メートルです、0メートル、

ヤマダ そんなまくしたてんなや。

キタガワ サカウエさん、アンタ奥さん子どもさんのとこへ行かんでよかったんちゃあうか。
サカウエ なんですすか、ヨシキさん。

キタガワ 罪の意識感じてんのやろ。なんで助けに行ったられへんかったんやろて、ワガを責めてるのやろ。もしやで、アンタがサノへ行ったらアンタまで津波に呑み込まれたかもしれん。れへんかったやないか。それから、奥さんらには逃げる時間は充分にあったかもしれん。そもそも津波はけえへんかったかもしれん。な、そやから今はただ、安全を祈ろうやないか。

ヤマダ だいいち無理やて、こんな暴風雨の中、サノミナトまで行くのんは、

キタガワ それにアンタ、消防団の分団長の責任でここへきてくれたんやろ。

サカウエ 遅かったです。もう出動してた。

キタガワ 待機や、待機、ここで待機。

ヤマダ よう考えたらオマエ偉いやんけ。見なおした。

キタガワ 出動した連中も心配やな。

タナカ ワイ、おかあちゃんのことか、

キタガワ イツちゃんとこのおかあちゃんの無事も祈っちゃろ。

少しの間。

雨風の音。

ヤマダ 植木屋はカミさんはえ？

タナカ ひとりです。

ヤマダ どついたらるか、ひとりに決まってるやろ。一夫多妻制を肯定してるんかキミは。ボクもまあ、反対はせんけど。

キタガワ いやいやいや、シンジさん、イツちゃんはひとりもんですわ、独身。

ヤマダ そのひとり。

タナカ そ、そのひとりです。

ヤマダ こう、見渡したところ、ワシとヨシキとサカウエくんが独り暮らしちゅうわけか。独居老人ばかりやのう。

キタガワ サカウエさんはまだ老人ちゃあうて。

ヤマダ ほんでサカウエくんよ、なんで離婚するはめになったんや。まだ未練を残しとるんやろ。

キタガワ それ訊きます？

ヤマダ 逃げられたんか。

サカウエ もおっ、このひとなんとかしてっ、

ヤマダ なんともなるかいっ、凶星やろが。

サカウエ ええ、逃げられたんですよ。

ヤマダ つば飛ばすなよ。またケンカ腰や。

サカウエ ケンカ腰ちやいます。しんちゃんとしやべるにはこれくらいのテンションを必要とするんです。

ヤマダ ああそう。

サカウエ そうなんですっ。

ヤマダ ワシかてや。

サカウエ なんて、

ヤマダ 嫁さんに逃げられた、

サカウエ そらそうでしょうね。その事実にはなんか得体の知れん説得力がありますわ。

ヤマダ どういう意味やねん。

サカウエ バツ2でしたよね。

ヤマダ オマエそれで勝ったと思うなよ。2の方が強いんじゃないや。あ、もしかしてサカウエくんもバツ2じゃアーリマセンカちゆうこと？ ippsoのこことバツ3やったりして。

サカウエ 1に決まっています。

ヤマダ ワシの勝ちか。

サカウエ なにが勝ち負けですか。

ヤマダ ・・勝ってもまあ、あんまりうれいもんとちゃあうわな。幸せにしてやられへんかった女の数を競ってもな、

サカウエ ボクは、・・・

ヤマダ ボクがどないした、

女2 サカウエ、沈黙した。

雨の音、風の音、はげしい。

キタガワ いつになったら暴風雨圏から外れてくれるんやろ。

タナカ 超大型で最大級の猛烈な台風、

キタガワ 最大級で、猛烈か、

ヤマダ オー、モーレッツや、

タナカ 中心気圧901ヘクトパスカル、風速65メートル、瞬間最大風速85メートル以上、

ヤマダ 風と共に去りぬ。

キタガワ 日本列島全域を覆ってるんやで。

ヤマダ 直下型やったな。

タナカ 地震な、

キタガワ マグニチュード8は超えてるやろな。

ヤマダ いや9はいってるぞ。

キタガワ ようこの屯所が耐えられたもんやな。

サカウエ そら火事災害救助の基地となる建物ですから、

ヤマダ 分団長、なんとかならんか。

サカウエ なにを、なにで、どう、なんとかできるんですか。もうこんな無理ですよ。

タナカ 静かやなあ。

サカウエ はあ？

ヤマダ オマエなにゆうとんねや、静かなことあるかい。

タナカ 自然の声だけや。

ヤマダ はあ？

女3 ドシンと地響き。

音響。

キタガワ 余震やーっ！

男たち身を伏せた。

女3 低く地響きが尾をひく。

地響きの重低音が、サイン波の音響に取って代わられる。

(パート2)

女1、台本を手から離れた。

ビヨーンビヨーンとゴム紐でぶらさげられた台本が上下に揺れる。

女1、二重舞台上がった。

サイン波の音響消え、強い風と雨の音がよみがえる。

女1 おかえり。

キタガワ え、

サカウエ あ、

タナカ おかあちゃん。

ヤマダ うっそ、

キタガワ イツちゃん、

タナカ だいたいま、もうくたくたや。

キタガワ おいつ、

女1 なにより無事でよかった。

キタガワ イツちゃん、アンタのおかあちゃんか。ちゃあうで。

女1 あんたらみいんなワタイの子オみたいなものや。

サカウエ (自分の頭を指して) コレやで。

ヤマダ おばちゃんも無事でなによりやなあ。

女1 へえ、おおきに。

ヤマダ いったん。

女1 ずうっとおるのやで。

ヤマダ あ、そう、ふーん。

タナカ おかあちゃんの顔みたら、いっぺんにウチに帰ったような気イになってきた。

サカウエ イチロウさん、アンタもコレか。

ヤマダ アルコールで脳ミソ腐っとんのか。けどそれやったらワシも負けてへんぞ。

サカウエ て、そんなん自慢したらおかしいでしょ。アンタ、なんでそこまで勝ち負けなんです

か。

一瞬の間があって、

ヤマダ (低く、冷たく) じゃかあし。

サカウエ ……なんで？ しんちゃんが怒った。なあ、なんで？

女4 ヤマダ、黙ってしまった。

サカウエ ボクそんな気に障るようなことゆいましたか？

ヤマダ ……まあええ。

キタガワ ワタシ、キタガワゆいます。去年までコミヤ地区の区長をさしてもろうてました。

女1 それはそれはご苦労さまなことでございます。

キタガワ あの、それで、たいがいのお宅の、その、ご年配の方がたを、存じあげてるつもりやねんけど、おばちゃん、ちよつと暗うて、顔よう見えへんもんで、

ヤマダ おばちゃん、どこのひと。

サイン波の音響。

女1 へえ、ワタイらは、

女2と女3、台本を手から離した。

ビヨーンビヨーンとゴム紐でぶらさげられた台本が揺れる。

女2・3、二重舞台上がった。

サイン波の音響消え、強い風と雨の音がよみがえる。

キタガワ え、あれっ、

サカウエ わ、

ヤマダ (女2の姿を目にして) おいつ、オマエ、

サカウエ あ、知ってるひと？

ヤマダ い、いやっ、暗いさかいによう。

キタガワ いつの間に。

女1 2 3 そやからワタイらは、ずうつとここにおりますのやで。

キタガワ この屯所に避難してきたつちゆうことは、コミヤ地区かクボタ地区にお住いの方がたですよねえ。

女1 へえ、ワタイらはずうつとここで暮らしております。

サカウエ あかんわ。ボケてるんやわ。そっちの若い方の人、

女2と女3、お互いの顔を見合わしてから、

女3 へえ、そやからワタイらはずうとここで暮らしております。

キタガワ おばちゃんら、おうちのひとは、ご主人やご家族は、どうしました。

ヤマダ おばちゃんゆうからいかんねや、おねえちゃんゆえ、

サカウエ ええっと、おねえさんらはどっからきたん。

女4 女2の表情が少し悲しげに曇ったくらいで、3人は、ほぼ反応しない。

キタガワ そらこんなえらいめエにおうてしもたらな、シヨックやわな。朝になったらきつと救助にきてくれるやろし、台風もいずれ通り過ぎる。まずは朝まで辛抱しましよ。ゆっくり休んでください。

サカウエ ヨシキさん、おことばですけど、休んでください、こんな時に寝られるわけじゃないですよ。

キタガワ いや、疲れてるやろうし、(女たちに)どっかおケガはないですか。

サカウエ 寝られませんかよ。こんなところで寝られたらおかしいわ。

ヤマダ ヨシキはおねえちゃんらに身体を休めいやってゆうてんのや。

サカウエ ・・・そうか、すいません。

ヤマダ いらいらさすなや。

キタガワ 子どもらはツダをはなれて、ご主人に先立たれて、そんな独り暮らしの女のひと、多いんや。

ヤマダ ワシらみたいなもんもな。

サカウエ 独居老人ばかりや。

ヤマダ オマエもそのうちそうなるんじや。

タナカ ちよつとは風、弱まってんのとちやあうやろかなあ。

ヤマダ いや、ぜんぜん、

キタガワ これで明かんなったらな、

サカウエ あ、このひと、キタガワヨシキさん。役場イ務めてはったんや。元お役人。役場でもデキル男やったさかいにな、ホンマやったらそのまま偉いさんとしてな、役場に残ってるはずやったんやけど、

キタガワ できるとかでけへんとか、カンケイない。

サカウエ ところがコミヤの区長に選ばれてしもてな。一家の長は全員被選挙権者やろ、選ばれたら問答無用や。断ったらえらいこと、そらもう村八分やさかいな。いや、断ったらゆうひと、だあれもおらへんけどな。ほたらヨシキさん、区長を引き受けるんやったら役所勤めの片手間ではできんゆうて、ほんで役場辞めて、ね、今は、

キタガワ 無職です。家庭菜園やってのんびり暮らしてます。

ヤマダ よおけ退職金もろてな。ワシらの税金やで。

キタガワ いやあ、そらすみません。

ヤマダ 年金もすごいぞ。

サカウエ ヨシキさん、福祉委員やってるんちゃあうん。

キタガワ それはボランティア。

サカウエ (女たちに) このひとを尊敬してるひと多いんやで。

キタガワ もうええかげんに許してください。その分、批判する方がたも多いですわ。陰でワタシの悪口ゆうてるひともよおける。

サカウエ 知ってますよ。そら、あれだけ思い切ったことしたら。

キタガワ いやワタシは、ムラの全住民にあらかじめ提案して、時間をかけて周知し尽くしたうえでやな、役員会に諮って、それでみんなて話おうて決めたことや。

ヤマダ そう思てるやろうけどヨシキ、オマエがゆうと全部正論になってしまふさかいにな、だれも表立って反対ようせえへんねや。陰でこそこせゆうやつおつてもよ。それに、あんなことがあつたさかいによう、みんなオマエに同情して、

キタガワ やめてください。

ヤマダ ・・・すまんかった。つい口が滑ったんや、カンニンしてや。

キタガワ いや、ワタシも、・・・すいません。

サカウエ しんちゃんはあるですか、陰でこそこ批判する派やつたんですか。

ヤマダ ワシが批判するわけないやろ。ヨシキの、ムラの古い慣習に染まった昔のまんまの祭とか盆踊りとかの金(かね)の使い方な、それを質素儉約する方向に変えてしもたんはな、すごいことや思う。そやけどそれによつてやな、わがの懐に入るはずやつた金が入つてけえへんようになってしもて、内心穏やかでないニンゲンがな、おるわけや。金の世の中やしな。

キタガワ 内心やないですよ。

ヤマダ 嫌味でもゆうてくるやつおるんかい。

キタガワ まあ、それは、ええです。

サカウエ ほんでこのひと(ヤマダ)がな、

ヤマダ おい、合コンしとんのかいワシらは、こんなオバハンらと。

サカウエ シーツ、初めて会うたひとらやさかい、このひとらとハナシしようと思たら、まずはボクから自己紹介するのが礼儀でしょ。

キタガワ そやな、まあそれが肝心やな。

ヤマダ ほたらボクは自分で自己紹介いたします。

サカウエ 自分でやるから自己紹介でしょ。

ヤマダ いちいちうるさいんじや。

サカウエ はい、どうぞ、このひとがヤマダさんです。

ヤマダ 自分でゆう、ゆうとるやろが。えーつと、ボクはヤマダシンジです。みんなはボクのことをしんちゃんと呼んでます。えーつと、今は昔、ヤマダ建設というのがありましたことをみなさま、ご存知でしょうか。そうです、もうないです。すぐその墓地に登る里道(りどう)の手前のとこ、今は串かつエルビスのある建物、そこがヤマダ建設の事務所でした。

サカウエ ということはエルビスももう墓の下に埋まっとるなあ。

ヤマダ エルビスも墓の下です。みなさんお静かにしてください。ヤマダ建設は、土木建築の仕事、それにオイケなど、山を削って崩して整地して、新興の宅地を開発分譲するなど、それはまあ、繁盛しとりました。社員も十数人いて、こつちやがなんもゆわんでも、銀行はんはこんな土建屋に、ええだけ金を貸してくれはりました。ウハウハでございました。社長はボクの子貴で、ボクは専務取締役で、仕事の内容に見合わん給料をもろてま

した。まあ従業員や下請けから搾取しとったわけですね。なんせ家族経営ですので。ところがまあよくあることで、儲かれば儲かるほど、ザルですくうた水のように金つちゅうのんは出ていきます。ボクの仕事は、取引先や下請けの業者らとお酒を呑むことです、あはは。特に近隣の市会議員町会議員さんや、役場の方がたと仲良うするのんが仕事でした。

キタガワ シンジさん、アンタいったいなにをゆいだすんや、

ヤマダ ええねん、ええねん、だまって聞いてけって。ところがですねえ、ええ時代ちゅうのんはそう長うは続きませんねん。今思えばやたら儲かった時代ちゅうのんは悪魔に魅入られた時代やったんです、日本ちゅう国全体がね。ボクはそう思います。兄貴はどっかへ消えました。ヨシキい、ワシの兄貴かて消えたんやぞ。贈賄やら癒着やらゆう、そんなことが告発されて、お上に睨まれトンヅラこいたわけでもありません。そんなもんは軽うく握りつぶしてくれるお偉いさん方に、ヤマダのしんちゃんは、ちゃあんと鼻薬をかがせておりました。つまりばれてないわけです。仕事のできる男です。ほななんでもつぶれ兄貴が消えたかといひますと、

キタガワ シンジさんやめい、いまさらそんなことゆうてもしやあないやろ。

ヤマダ ワシの会社のことや。ヨシキはカンケイあらへんやろが。オマエは正しいことしかせん男や。正しいことしかできん男や。汚いこともよう聞け。

キタガワ ……それは侮辱ですか。

ヤマダ いや怒るな。怒らそ思てゆうてんのやないぞ。ワシな、もう、ワシのこの腹の中に溜まりに溜まった、カンカン照りのお陽さんに焼かれて干からびてもうた肥溜めみたいなよう、パリパリに固まってへばりついた汚いもんをはがして、このカラダの底から吐き出してしまいたいんや。台風のさなかのめちやくちやな地震や。罰(ばち)があたつとんのや、罰が。

サカウエ 罰がて、だれにですか、だれからだれにですか。

ヤマダ 大自然が、ニンゲンにや。汚いニンゲンにや。

サカウエ ほなキレイなニンゲンは巻き添えですか。犬や猫も汚いニンゲンの巻き添えですか。

ヤマダキレイなニンゲンにいてへんわいつ、なあヨシキ。金を使い放題に使うて、ええもん食うて、ええもん着て、ええ車乗って、女遊びや博打に溺れて、ゴルフやって、騙されとるのんも知らんで骨董品集めて喜んで、頭狂うぐらい酒呑んで、ほんでワシ、今でもプリウス乗ってんぞ。生活保護やのに。

サカウエ プリウスですか。

ヤマダ 女と博打は兄貴や。骨董品やってたのも兄貴や。

女4 稲妻、雷鳴。

音響。

ヤマダ あはははははは、

女4 再び稲妻、雷鳴。

音響。

ヤマダ 罰あたってる罰あたってる。ええぞお、もつとあててくれえつ、わははははは。ほんでこつからや。こつから先はヨシキでも知らんことやぞ。

女4 さらに稲妻、そして激しい落雷。

音響。

女4 ぞつとさせるような緊張。

ヤマダ 兄貴と嫁さんが消えたやろ。(女2に) しかしアンタ、トモコさんに似てるな。

女2 早いハナシが、

ヤマダ うん、

女2 アンタ、ワタイに色目を使ってんねやろ。

ヤマダ はっははははっ、こらケツサクや。

女2 あかんで、ワタイは。

ヤマダ 最初はみなそうゆうんや。イチロウ覚えとけ。女つちゆうのんはな、初めはイヤイヤやゆうてもな、男が必至で頼んだらな、どうにでもなるもんやねん。

女2 アホな男はんや。

女1 情ですな、情、情にからまれまんのや。男はんはみなワタイらの子オですさかいにな、相手の思いを哀れと思うて同情してしもたら、ほだされるちゅいまんのか、自分の意志や立場も忘れてもうて、ひかされ流されてしまうもんですのや。

ヤマダ ほれ今の聞いたか。このおばちゃんはおわかってるやないか。

女1 アンタらはワタイらの子オやさかい。アンタ(ヤマダ)も、アンタ(タナカ)も、それからこのひと(キタガワ)も、ワタイが取り上げたんやさかい、それようわかってま。

サカウエ 取り上げた？

キタガワ 産婆さん？

サカウエ サンバさん、リオのカーニバルで踊る、みたいな、あ、ちやいますよね。ああ、すいませんでした。ボクはサノのタニグチ病院で産まれました。ウチの娘らふたりもそうです。

ヤマダ それがないした。

サカウエ いや、産婆さんとちごうて、

女1 取り上げ婆ゆうてな、赤子をこの世に取り上げる。それもうありがたいお役目でおます。しゃあけど、ほんにそれがええことや悪いことやら。

タナカ ええことに決まっています。

ヤマダ そうかいチロウ、オマエそう思うんやな。

タナカ はい。

ヤマダ ほなオマエ楽しいか。生まれてきてよかったか。こんな原住民ばかりのムラで、しゃ

べれへん木イ相手に植木屋やって、オマエ、村の外へ出たことあんのか。広い世間知ってんのか。ええ年こいてひとりもんで、おかあちゃんと暮らして、酒呑んで、それだけやないか。

キタガワ おいおいやめたって。

タナカ ワイ、山に登るのが好きで、楽しい。

ヤマダ 山登り。コイツよけい世間から遠ざかっていってるやないけ。ゆくゆくはチョモランマにでも挑戦する気ですか。

タナカ いやそんな大それたもんやのうて、雨恋山とか、あの辺の山に、

ヤマダ こりやまたチンケな山やのう。酔っぱらうててよう登れるもんですな。

タナカ いや、登る時は酔っぱらってませんよ、呑んでも。

ヤマダ 呑んでも、あつはははは、あ、そう、ええ趣味や。ワシらゴルフ場の芝生歩くだけでもうへトへトや。足腰弱つてもうてよ、さつきも足ゆわしてしめて、・・・そやけども、もういたない。

タナカ ワイも痛風治つたら。

サカウエ ボクかてアタマ思いつきり打ったんやけどな、

キタガワ なに自慢しおうてんねん。

ヤマダ あれワシ・・・、

サカウエ どないしましたん？

ヤマダ ヨシキ、ワシ酔うてたか？

キタガワ は、

ヤマダ ここで、顔あわしたときよう、

キタガワ いえ、足いたいたいゆうだけで、シヤンとしてはりましたよ。

ヤマダ ワシ、べろんべろんやった。台風で、ムシヤクシヤして、朝から呑んでよう。

サイン波の音響がほんの少しの間だけ響く。

サカウエ 非日常の世界におると、いたみてゆうのも感じいひんようになるもんなんやな。

キタガワ このメンバーで一箇所に集まって、よう知らんおねえさんがたと、よりによって穴倉か防空壕みたいなどこに籠って、こらホンマ思いつきり非日常や。

ヤマダ これで酒でもあったらのう、植木屋。

タナカ (唐突に) 山はよう、どっかに神さんいてるんとちゃあうかなあと思わされてしまうとこあるで。

キタガワ 山も神さまのおわす所やろうなあ。

ヤマダ カミさん求めて非日常の山へ。

サカウエ そのカミさんと神さんがちゃあいます。(アクセント注意)

タナカ もともとはよう、ワイ、シキビにシキブな、それからコムラサキ、センリョウ、マンリョウ探しに、登り始めたんや。

サカウエ シキビは知ってる、仏壇に供えるやつ。

ヤマダ 売るんか。

タナカ はい。

サカウエ センリョウ、マンリョウて？
タナカ 庭木にするんや。

ヤマダ (サカウエに) オマエ、センリョウもマンリョウも知らんのかい。世間の常識やぞ。
サカウエ 常識なはずないですよ。

ヤマダ 常識なはずあるんじや、ボケ。ヨシキ、オマエも知ってるわな。イチロウかて知ってるんやぞ。

サカウエ そらそうでしょうよ。

ヤマダ ちつとは反省せい。

サカウエ 知りませんよ。

ヤマダ そや、知らんのはオマエだけじゃ。

サカウエ お金みたいな名前ですね、イチロウさん、

ヤマダ おいオマエ、ワシのことシカトしたな。

タナカ みなキレイな可愛らしい実イつけよる。シキブやったら紫色のな、

サカウエ 紫式部や。

タナカ ムラサキシキブや。

サカウエ な、源氏物語やっつけ、

ヤマダ ムラサキシキブちゅうとんじや。

サカウエ なに、紫式部は源氏物語でしょ。

ヤマダ そやからムラサキシキブちゅうんじや。

サカウエ なにそれもう、なんか混沌としてきたわ。

タナカ 白い実をつけるのもあつてな、それはシロシキブ。

サカウエ え、シロシキブ、えーっと、ムラサキシキブシロシキブ、あれ、もしかしてシキブて

草の名前？

ヤマダ オマエなにを聞いとんじやい。

タナカ それからコムラサキ。ちっちゃい実イをよおけつげよるんや、で、コムラサキや。

キタガワ さすがは植木屋さんや。その山も、地震で今はどうなったかやなあ。

タナカ まあ大丈夫です。

ヤマダ 山やぞ、ちよっとぐらい崩れたりしてるかもしれないぞ。

タナカ 山肌は雨で流される。木イは風に幹を揺すられ、踏ん張る根っこも引きちぎられて、倒れる。

ヤマダ 全然大丈夫ちゃあうんけ。(女たちに) あ、今、タナカイチロウさんの自己紹介中ですよ。いくつやオマエ、

タナカ え、五十五。

ヤマダ 五十五歳、独身です。どうですかおねえさん方、このひと、

女2 雨恋山にセンリョウは咲いてんのけ。

女3 雨恋山にマンリョウは咲いてんのけ。

タナカ ワシだけの秘密の場所にな。

女2 そうけ。

ヤマダ お、恋の花咲くきつかけがでけたで、

女4 女2と女3、顔を見合わし、うなづき合った。

女3 よかったなあ。

キタガワ いったいそれが、え、なに、

女2 よかった。

女4 キタガワ、サカウエ、首をかしげた。

ヤマダ よかったて、なにがよかったんや、この地震でどうなってもたか知れんのやぞ。

タナカ 蘭に山ユリ、真っ白でキレイでなあ、うっとり見惚れるでなあ。シダ植物の林、通り抜

けてな、奥へ奥へ踏み込んだら水もないのに苔むしたところがあってなあ、それはなんで
かっちゅうと、地下に水が流れとるねん。山は目に見えへんけどな、水をいっぱい抱え
とんのや。ほんでなんもなかったとこにでもキレイな花咲かす。不思議な力、持ってん
のやな。水てあれやでやっぱり、命の源やで。

ヤマダ 酒は湧き出してへんのかい、あはは、イチロウの命の源は酒ちゃあうんか。

女4 雨の音、風の音、少しやさしくなったような、

キタガワ 雨恋山、雨を恋する山て書いてなあ、いや雨が山を恋するんか、いずれにしても、い
つたいどこのどなたさんが名づけたんか。

ヤマダ ワシの兄貴な、山にいるのや。

女4 稲妻、雷鳴。

照明効果、音響。

ヤマダ もう、笑うなあ。みなさん笑うてください。ここ、笑うとこです。ワシの上に落ちたら
ええのに。罰あててくらはい。

キタガワ 今確か、社長が山にいてゆいましたよね。

ヤマダ 埋まってるよ。

女4 稲妻、雷鳴。

照明効果、音響。

女4 女たち、泣きだした。

サカウエ ここはもらい泣きすることちやいますよ。もちろん、笑うともちやいますよ。

ヤマダ 兄貴は山で埋まってるちゅうわけや。

サカウエ なに平然と、

キタガワ うん？

サカウエ え、どういうこと、どういうこと、

女1 数えきれへん哀しい出来事を背負うてまんのや。

サカウエ おねえさんら、しんちゃんとかンケイあるんか、なあ、泣いてんと、

ヤマダ イチバン泣いたんはオマエやろが。

サカウエ ぎやふん。

キタガワ だれが埋めたんですか。

ヤマダ ワシや。ワシと、もひとりや。

キタガワ もひとり。

ヤマダ そうや、もひとり。

キタガワ つまり、手にかけてちゆうことですか。

ヤマダ それは知らん。埋めんのを手伝うただけや。社長は行方をくりました、ちゆうだけのこ
とや。

キタガワ ほたら社長の奥さんは？

ヤマダ 知らん。もう時効ちゃあうんけ。

タナカ 山は美しいで。美しゅうてなんや怖ろしいで。なあ、おかあちゃん(女1に)。

サカウエ しんちゃんもイチロウさんもオカシイで。

ヤマダ ワシらみんな狂うてもた。そやからこんなハナシしてんのじゃ。

サカウエ ボク、なんとかがんばって現実逃避して、ちよつとでもしんどいこと忘れて、なんと
か、なんとか踏ん張って、気持ちをも、保ってるんですよ。しんちゃん、そんなことゆう
たらボク、……、

ヤマダ 狂え狂え、オマエも狂うんじゃあ。

サカウエ (堰を切ったような号泣とともに) うわーっ、すまんよおー、……許してくれえユキ

コーっ、スマレーっ、アオイーツ、こんな時にパパがついててやれんでえー……、

ヤマダ おい農協、まだどうなったかもわからないのや。

サカウエ 心配で、心配で、心配で、心配で、

ヤマダ ほな、行つたれや！

女4 サカウエ、もし外に出たらどうだろうかと、イメージする。

照明が変化し外の様子を想像させる。

激しい風、豪雨、ナニモノかのぶつかる音、放電による稲妻、頭上への落雷の大音響
が響き渡る。

このタイミングで、換気のため開放されたままであったウイングフィールド入口のド
アが、閉じられる。

音響消え、明かり元に戻り、

キタガワ ここが安全みたいやなあ、サカウエさん。夜が明けるところ、台風がそこそこおとなし

ゆうなつてくれたら、

サカウエ ……、……、

ヤマダ いま何時くらいや。どうせだれも時間のわかるもん、持っていないやろ。

女4 どうやらその通りらしい。

ヤマダ イチロウ、もう済んだんかい。

タナカ え、なにがです？

ヤマダ プロポーズ大作戦や。わがの自己紹介や。

タナカ いやべつに、そんなんしてへんですし、

ヤマダ ほたら次、最後に農協・・・、今はちよつと、精神状態の立て直し中か。

キタガワ シンジさん、もうひとりて、社長の奥さんのことですか。

ヤマダ うーん、どやろ。

キタガワ 社長の奥さん、トモコさんてゆうたんとちやいましたっけ。

ヤマダ 不思議やのう。ここは寒うも暑うもない。今、季節はいつや。まるで土の中や、ここは。

サイン波の音響。

すぐに消えて、再び台風による雨と風の音。

ヤマダ ワシは離婚してから兄貴の嫁はんと、まあ・・・兄貴が悪いや。外でヘンな女にばかり入れ込んで。ワシのバツ2の二つ目は、兄貴の嫁はんや、ちゆうことや。どうや。

キタガワ なにが、どうや、ですねん。ほたらトモコさんは、

ヤマダ 知らんちゆうたやろが。

キタガワ ムラのみんなは、社長と奥さんは一緒に夜逃げしたと思てる。

ヤマダ それでええやないか。

キタガワ ほたらワタシら、どないしたらええんですか。シンジさんの口からそんな事実聞かされてもうて。

ヤマダ 事実や思てんのかオマエ。ワシ、ウソゆうてんのかも知れんやぞ。

キタガワ そんなことゆわれても、

女1 死んで朽ちたら土に還りまっしゃろ。

女2 ワタイとこの亭主もな、

女3 うちとこの兄ちゃんもな、

女1 みんな山に埋まってますのや。不思議そうな顔してはりますが、そういうもんだっせ、往生するちゆうのんは。

女2 結局、土に還るちゆうのんは、山へ還るちゆうことでしょうか。

女1 センリョウマンリョウドころのはなしやおまへんや。一千両の金(きん)の塊がよおけ、雨恋山には埋まってまんや。金(きん)もほれ、元はといえば土やおまへんか。土に還ってキレイな花咲かしたんやったらそらうれしおます。

女2 ワタイの亭主がな、運んだんですえ。

女3 ウチのにちゃんもな、

女1 金(きん)を隠すんは土の中がいちばんええてゆうて、ムラの若い元気なもん屈強なもんが集められて、雨恋山のどっかに埋めちやある。

サカウエ それはすごい。

ヤマダ オマエ急に元気になって、金（かね）に目がないんやのう。

サカウエ 当然でしょう。

キタガワ それは戦時中のハナシですよ。屈強な若者が、ようムラに残ったもんですな。

女1 みながいちどきに連れてゆかれるもんやありまへん。田畑（でんぱた）の重労働がおますさかいに。

女2 お上にな、戦（いくさ）の軍資金やゆうて、金の塊をな、

サカウエ 延べ棒や。

女2 運ばされて、穴掘らされて、埋めさせられてなあ。

サカウエ それどこに埋めたんかわからへんかなあ。

女2 センリョウの花が咲いて、

女3 マンリョウの花が咲いて、

サカウエ え、イチロウさんつ、アంతアの知ってるヒミツの場所かな、

キタガワ いや金塊から花が咲くはずはない。

女1 ワタイの息子からですわ。

女2 ワタイの亭主からですわ。

女3 ウチとこの兄ちゃんからやねん。

女1 ムラのもんが十人ほどですかいなあ、麻袋に包んだ金塊を身体に巻きつけて、雨恋山の奥地の方まで連れてゆかれてなあ、

女2 ワタイとこの亭主がな、うっかりワタイにしゃべってもうたんです。出かける朝に。雨恋山の奥に金塊を運ぶんやと。

キタガワ 軍の命令でそういうことがあったんですな。

サカウエ ここ、まるで防空壕みたいですよ。

ヤマダ オマエ、防空壕知ってんのか。

サカウエ 知ってますよ。おじいちゃんからよう聞かされました。敵の戦闘機に低空飛行で機銃掃射されたて。あんな怖い思いしたことなかったて、話してくれたときもカラダ震えてましたよ、おじいちゃん。今は東保育所になってる山の下の防空壕に、命からがら逃げ込んだて。あそこ、虫食いのリングみたいにそこいらじゅうから穴掘って、蟻の巣ウミたいに、

ヤマダ そうや、中で一箇所だけつながってる。通り抜けでけるんや。

サカウエ 子どもの頃、宝物でも見つけれへんやろかと、探検して、

ヤマダ あるわけないやろ。

キタガワ コミヤのものとクボタのもんは、みな一度は探検するねん。

ヤマダ 女はせえへんぞ。そんな女みたことない。

キタガワ いやミツちゃんとイクちゃんは、やってみましたよ。

ヤマダ アイツら男みたいなものじゃい。

サカウエ 金塊は雨恋山の奥地ですよ。それでセンリョウにマンリョウが咲いてるところですか。

ボクと一緒に探しませんか。なあ、イチロウさん、

女4 だれもなにも答えない。

サカウエ ヒントでも教えてくださいよ。

キタガワ いやサカウエさん、このひとらのゆうてはるのはそんなことやない。

サカウエ 金の延べ棒ですよ。イチロウさん、今度、雨恋山にセンリョウ、マンリョウを採りに登るとき、ボクも連れて行って下さいよ。お願いしますよ。

女4 イチロウはうたた寝をしていた。

サカウエ イチロウさん、・・・あかん、寝てるわ。

キタガワ こんな時に、こんなところで夢の中やて、よっぽど肝の据わったひとやわ。

ヤマダ アホなだけや。

キタガワ (ひとりごと) いつの時代のハナシしてるねん。

女4 そして、ここにきてキタガワは無口になってゆく。

サカウエ ボクはサカウエヒロシといいます。

ヤマダ 金の延べ棒で元気いっぱい、復活したサカウエくんの自己紹介が始まりました。

サカウエ ツダ農協のJAバンクに勤務して二十四年。出納事務の主任をやっております。

ヤマダ 主任。その年でまだ係長にもなられへんのかいな。

サカウエ それから地域では消防団で分団長をやらせてもろうてます。奥さんと子どもがふたり。今はちよつと離婚して別居中です。妻と子どもにはサノにちっさいですけど新しいウチを買うてやりました。

ヤマダ なんと、主任の分際で生意気な、

サカウエ うるさいです。

ヤマダ なんやこら、年上に向かって、

サカウエ あとで謝りますよ。

ヤマダ あとで謝るて、

サカウエ 聞いてください。ボクが話しているんです。聞いてください。それがです、今回の地震で子供らの家はどうなったんか。心配です。津波がきたかもしれませんが。海の近くです。青空魚市場の近くです。津波に吞まれてたら、ボクの責任です。ボクが悪いんです。ボクがっ・・・、

タナカ 風が、

ヤマダ 起きたんかい。コイツがぎやあぎやあうるさいさかいのう。また泣いてるぞ。

タナカ 弱まったんちゃあうけ。雨ももうすぐやむで。

女4 風は確かに幾分かは弱くなった。

そして雨も。

サカウエ ボクは、消えるつもりやったんです。

ヤマダ 消える、
サカウエ はい。金塊を持って。
ヤマダ アホ、まだ金塊はまだ掘り出してないやないか。(女1、女2、女3に) ねえ、

女4 女たち、声を発しない。

サカウエ ここにあるんです。

ヤマダ ここに？

サカウエ ボクは子どもらのもとに助けに行っちゃらんと、金(きん)を取りにきたんです。

ヤマダ こらみなおかしなつたわ。

サカウエ ここにひと握り百万円の純金が二十三個、隠しちやあるんや。空き缶に詰めて、鉄板で蓋をして埋めちやあるんや。消防ポンプ車の左後ろのタイヤが載っていると。めったに動くことのないタイヤの下。車動かさな金は掘り出されへん。ポンプ車のキイはボクも持つてる。分団長やさかいな。ええ隠し場所やと思いませんか。それが、それがどこかわからへん。コミヤ分団は出動してる。そやけど、車の轍がない。屯所の中は見る影もないくらい変わってしもてる。それにアンタらがいる。ホンマにここは屯所なんか。ここはどこや。どこかもわかれへんやないか。はい。埋まってます。ちゃんとどこかに埋まってます。ボクは金を取りにきたんやあ。．．ボクなんでやる。なんでこんなことゆうてんやろ。

女4 プロペラの音、近づいてきた。
いくつも。

音響。

ヤマダ ヘリや。ひとつちやあうぞ。

サカウエ オスプレイが助けにきた。

ヤマダ ワシらの頭上を飛び廻ってる。

女4 バラバラとなにか陰険な響きのプロペラ音、
そして攻撃的なエンジン音が襲う。

プロペラ音に戦闘機の爆音がかぶさる。
機銃掃射の音。

男たちも、女たちも、声を上げて、伏せて小さくなった。

(男たちの動作と、女たちの動作に、時間的空間的なズレがある)
しばらく無音の時間があって、

女4、立ち上がった。

女4の手から離れた台本は、ビヨンビヨンと揺れている。
戦闘機らしき音響は遠ざかってゆく。

プロペラ音はまだ遠く近くで響いている。

キタガワ ムラじゅうが停電しとる思うんやけどな、なんで襲われた。

タナカ 戦争が始まったんや。

ヤマダ どの国が攻めてきたんや。

キタガワ 別にワタシらを狙ろたと違うかもしれへん。

ヤマダ ほななんや。

タナカ 戦争イヤや。

キタガワ ワタシらは今、防空壕の中、いや、墓も屯所も防空壕も、ひと山なんぼの隣り合わせ。

ここはどこや。ワタシらは今どこにいるんや。

プロペラ音はまだ遠く近く、ときには頭上で響く。

女4は二重舞台周辺を歩き、適当な立ち位置へと動くことができる。

台本を手に取り、ページを開け、

女4 サカウエは、空き缶を埋めた場所を探し当てたい。

サカウエ ボクの純金、ボクの金塊は、どこや、（這いまわり探しながら）ボクはな、家族が好き
き

なんや。ファミリアを愛してんのや。幸せなファミリアにしたかったんや。そやから農協から金を盗んだ。ひとり暮らしの年寄りの定期預金を黙って解約した。いくつもいくつも解約した。ほんで、ランドクルーザーを買った。休日には必ず家族で遊びに行った。毎年毎年、海外旅行にも連れて行った。家のリフォームもやった。子供らの気に入るようにな。ピアノを買ってやった。幼稚園から私立（わたくしりつ）に入れてやった。それが、もうあかん。監査が入った。バレてるんや。そやけどけつたいなこと、半年経っても、どっからもなんもゆうてけえへん。どないなつとるねん。なんもゆわんと、ボクのことをどっかから見張ってるねん。次にボクがどうするか、こそつと耳をそろえて弁済したら無かったことにしてくれるんか。そんな金（かね）あらへん。ボクは奥さんと離婚して、いざというときに家族に害が及ばないようにした。偽装離婚や。手元に残る金（かね）で純金を買って、ここへ、ここへ隠したんや。隠したはずやったんやあ。

ヘリコプターのプロペラ音は消えた。

女4 どうしても見つけることはできない。

サカウエ ボクは金塊二千三百万円を持って、ここからどこか遠くへ一回消えて、ほんで整形してサカウエヒロシとは別人になって、もう一回、ユキコや子供らのとこに帰ってゆくはずやったんや。サカウエヒロシはさっきの地震で死んだんやあ！

ヤマダ 浅はかやのう。

キタガワ いくらぐらい使い込んだ。

サカウエ 1億円くらいかなあ。

キタガワ そらオマエ、(絶句)

ヤマダ わっはっはっ、ワシの勝ちや。ヤマダ建設の負債は3億じゃい。

サカウエ そやからボクはこの地震で死んで、死んで行方不明ということになって、別のニンゲンとして甦るんですよ。

ヤマダ オマエ、悪いことした罪は償えへんのかい。ひとり暮らしの老人の通帳からて、ワシもヨシキも独り暮らしの老人じゃ。イチロウかておんなじようなもんや。

サカウエ ……

女4 (台本を手にして) いたるところをつかれた。なにも答えられない。ぐうの音も出ないとはこのことだ。ぎゃふん。

キタガワ ヘリコプター、行ったな。

ヤマダ なにを偵察してるんや。

キタガワ テレヴィ局にでも帰るんやろなあ。

タナカ おかあちゃん、

ヤマダ また機銃掃射されるんちゃあうか。

タナカ もうすぐ夜明けや。お願いや、はよ明けて、はよ明けて。

キタガワ 夜が明けたらワタシらを掘り起こしてくれんのかな。

ヤマダ 掘り起こす、

キタガワ 自衛隊のみなさんが。

女1 ワタイらの息子はな、

女2 ワタイらの亭主はな、

女3 ウチらの兄ちゃんはな、

女2 埋められたんや。

女3 金塊を運ばされてな、それを埋蔵する穴を掘らされてな、

女1 あした運ぶ金塊の分、

女2 あさって運ぶ金塊の分、

女3 しあさって運ぶ金塊の分、

女1 その先のその先の金塊の分、

女2 いくつも穴を掘らされてな、

女3 ほんで殺されて埋められたんや。

女1 埋蔵した場所を秘密にするためやんなあ。

サイン波の音響。

全員ストップモーション。

サイン波の音響が消える。

キタガワ おねえさんらおいくつです？

女1 あれいややわ、男のひとに歳をたんねられる(尋ねられる)やなんて。

キタガワ ワタシだんだんとわかってきましたわ。ワタシら埋まっとなのや。この人らの息子さ
んやご亭主やお兄さんとおんなじで、埋まっとなのや。これはもうワタシらは生きてな
いちゆうことちやいますか。閻魔大王さまの御前（おんまえ）で、なんやかや白状して
もうた。そういうこつちや。わかりますか。みなさん、氣いつきませんか。

微妙な間。

タナカ ワイも、そうゆうたらさつきからそんな気分や。

ヤマダ 気分？ ワシ、死んでるんかも。死んでる気分？ ほなここにいるオマエも、オマエも、
このひとらも、みんな死んでるんけ。ほんで足の骨折ったワシも、いたないてそうゆう
ことなかい。

キタガワ 死んでから生き返ったひとに会うたことはないし、

サカウエ 会えるわけじゃないですよ。

ヤマダ 機銃掃射されて死んだか。

キタガワ そうとは思いません。

ヤマダ 当たってないしな。

キタガワ 考えたら、生まれる前の世界に戻るだけや。

サカウエ 子どもらとも、もう会われへんのかなあ。

キタガワ そんなことないでしょう。行い次第とちやいますか。

サカウエ 行い次第、て、あかんやんボク。

ヤマダ ようわかっるとるやんけ。オマエはアウトや。

サカウエ うわー、

キタガワ サカウエさん、今後の、や。

サカウエ 今後の、今後の行い次第で、どっかで妻や子どもらと会える場所があるつちゆうわけ
ですか、

キタガワ そら知らん。坊さん（ぼんさん）に聞いて。

サカウエ ヨシキさん無責任やあ。

ヤマダ 実はコイツはこういうオトコやねん。

サカウエ ボクら死んでるんですかあ、

ヤマダ またケンカ腰かいオマエ。

サカウエ ちやいますよ。

タナカ 生まれる前かあ、どんなところにおったんやろなあ。ワイはきつと、キレイな花のようけ
咲いた、深い緑の山奥みたいなののような氣イするなあ。

ヤマダ 生まれる前に戻るだけやったら死ぬのんも怖ない。けど、自分の人生なんも無しで終わ
るのは怖い。な、そやる。死んでるんやワシ。死んでる状態。これ死んでる状態、

ホワイト・ノイズ音響。

全員、ストップモーション。

明かりは男たちにフォーカス。

顔を寄せあつた男たち、ぱっくりと口を大きく開ける（実はもうずっと、呼吸をして

いなかったのだ。

ホワイト・ノイズ音響アウトして、ストップモーション解放された瞬間、

タナカ なんまんだぶ、なんまんだぶ、なんまんだぶ、なんまんだぶ、

ヤマダ あの世へお帰り、ただいま、や。

キタガワ 遠いところからきて、ほんでまた遠いところへ帰ってゆく。

女4 (台本を手にして) 遠いところから声が聞こえてきた。

キタガワ あ、

タナカ 聞こえる、

キタガワ 猫か、

ヤマダ 猫の泣き声、

サカウエ ……ちやいます。

男たち、耳を澄ます。

キタガワ 赤ん坊(あかんぼ)や。

サカウエ はい、

ヤマダ 赤ん坊、

タナカ 赤ちゃん、

気が付けば、緩やかに朝の光が射しこんでいる。

サカウエ あ、

キタガワ 夜が明ける、

ヤマダ みたいやな。

サカウエ やつとや、やつと、

キタガワ 悪夢の夜、正気を失うた夜が、

ヤマダ グッドモーニング。

キタガワ 台風は通過したみたいですね。

サカウエ それにしても、なんでこんなところに赤ちゃん。

タナカ お母ちゃんはどないしたんや。ほてから、ワイのお母ちゃんはどくなつた、

サカウエ うちの奥さんや子どもらは今、

わずかな間。

キタガワ 静かやな。

ヤマダ 静かかな。

キタガワ 静かと思たら静か。

タナカ はい。

キタガワ さて、行きましょ。こっから出ましょ。

ヤマダ 出る、

サカウエ 出れるかなあ、自衛隊の力を借りんでも、

キタガワ ここは屯所か墓か防空壕かようわからんけど近くで赤ちゃんが泣いてる。行かなあかん理由です。われわれにできることやったら、あの子をなんとかしちやらんと。

外に出たら、出たとしたら、破壊されつくした世界に目を覆わないかんのやろうけど、まずは赤ちゃんのここに行ったらな。

サカウエ 死人の夜明けって、ボクらのこと、あつははは、って、笑えませんわ。

ほんの一瞬の間。

ヤマダ よっしゃ、行くけ。

タナカ はい。

キタガワ 行きましょ。

サイン波の音響。

舞台上では全員、ストップモーション。

女4、台本から手を離し、二重舞台へ上がった。

ビヨーン、ビヨーンと上下に揺れる台本。

みな動く。

キタガワと女4、目があった。

向かい合った。

そしてまたストップモーション。

その時、タナカは女1と、ヤマダは女2と、サカウエは女3と、まるで懐かしいあの女（ひと）に出くわしたかのようにじっと向かい合っていた。

キタガワ ユリエ、

わずかな間。

キタガワ ……すまんかった。すまんかったよう。許してくれ。

サイン波音響アウトした。

ストップ・モーションは解かれた。

ヤマダら、キタガワの姿を見て察するものがあつた。

ヤマダ 会えたんか。

キタガワ はい。

ヤマダ そうか、とうとう会えたんやな。

キタガワ これが現実や。

ヤマダ そうか、そういうことになってしまうんか。そうか、わかった。ワシはわかったぞ。それよかったんか、ようなかったんか、わからんけど、えーっと、そうや、よかったに決まってる。辛い人生おくって苦しんで死ぬのんと、生まれてけえへんのやつたら、そらやつぱり、しんどても、どんな人生でも生まれてきた方が得やで。なあ、得や。負け犬も、敗残兵でも、ワシらは生まれてきて得をしたんや。ワシらはみんな得をしたんやあ。キタガワ ワタシは家族を守ってやれんかったから地獄に落ちたんです。ユリエ、サユリとは会えたんか。

女4、微笑んだ、ように思えた。

ヤマダ (サカウエに) オマエも大丈夫や。また子どもらとも、逃げて行った嫁とも会える。

サカウエ なにを根拠にそういうことをおっしゃっているのかボクにはわかりませんけれども、

はい、そう信じます。そやけどしんちゃん、逃げて行ったんとは、ちゃあうんですけど。

ヤマダ 企みやがって。オマエの嫁もワルやのう。

キタガワ ほんまやわ。

サカウエ ボクの妻を悪くゆわんでください。

ヤマダ 悪いやないかい。

サカウエ いや、やさしい、ええ女性ですよ。

ヤマダ そんなもんしるかいつ。オマエら夫婦は地獄に落ちる運命じやい。イチロウ、また今度いっしょに呑もけ。

タナカ はい。

キタガワ ほないっちょよ、行ってきますか。

サカウエ ボクかて行きますよ。

ヤマダ あたりまえじや、オマエもこい。

サカウエ 行くゆうてるでしようが。

ヤマダ またケンカ腰かい。

サカウエ ちやいますよ。

男たち、立ち上がり、ウイングフィールドの出入り口の方に目をやり、身体を向ける。

ヤマダ 台風一過や。きつとええ天気やぞ。青空ポーンや。

男たち、二重舞台から転げるように降り、一瞬立ち止まる。

女1・2・3・4、キレイな並びにて、

女1・2・3・4 氣をつけて、でったいに帰ってくるんやでーっ。

音楽イン。

男たち、スロウモーションで、出口までたどり着くと、ドアが開く。

ドアの開く音、音響にて。
男たち退場。

朝の光が劇場空間に差し込むと、女たち、一瞬にして崩れ落ち、そこには土に還った
女たちの姿がある。

音楽が空間を支配して、
ドアがゆっくりと閉じられると、
舞台はいったん暗黒になってほしいが、それは換気のため窓が開け放たれているゆえ、
不可能である。
しかしすべての照明はアウトされ、
了。

音楽だけが高く鳴り響いている。

で
冒頭に記した新型コロナウイルス対策のための特殊な演出とは、「上演において、黒
印字された箇所はあらかじめ録音され、音響機器により劇場内に流される」というこ
とである。

また、そのことにより、俳優は「劇場内では一切声を発しない」し、指定された一度
を除いてずっと、「口を閉じたまま」の状態である。すなわちこの上演は、録音され
音響と俳優の身体によるパフォーマンスとなる。

換気などのため、途中休憩を余儀なくされる場合（パート1）と（パート2）の間が
休憩時間となる。その際、男4人は、伏せた状態で静止したまま、休憩時間をやり過
ごしてほしい。女4人は、楽屋に戻ってよい。

いずれは通常の上演の機会が訪れることを願うものである。

上演記録

2021年三月二十六日から二十九日

大阪・ウイングフィールド

出演 村尾オサム（キタガワヨシキ）

木嶋茂雄（ヤマダシンジ）

坂本正巳（タナカイチロウ）

松本信一（サカウエヒロシ）

条あけみ（女1）

大熊ねこ（女2）

久保田智美（女3）

こやまあい（女4）

演出 キタモトマサヤ

舞台監督 沢渡健太郎

照明 西岡奈美

音響 大西博樹

舞台美術 佐野泰広